

2/4(土) まいど倫理号です。お全体の中、日おいかがお返しですか。コロナが雨で
お発奮もままらうか。ご苦労な様です

心解かにお休下さいませ。

幸心算がアホー鳥

2021. 8. 14～8. 20

今週の

倫理

8月のテーマ | 倫理経営

1242号

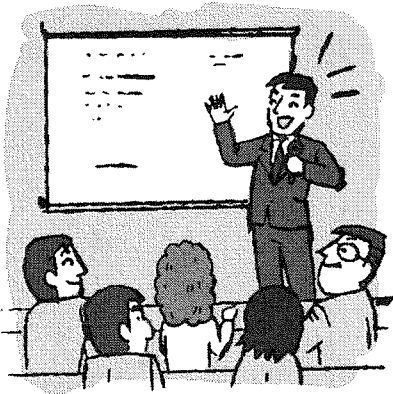
純粋倫理に基づく倫理経営では、不変の縦軸として、先代や親との関係を大切にします。今号は、親との関係を見つめ直し、明朗な心境になれたことで、事業商売が好転した体験事例をご紹介します。

Nさんは不動産会社で十年間勤務した後、独立して不動産業を開業しました。しかし、最初の数年間は苦労の連続でした。金銭面で騙されたり、社員が辞めたりと、様々な問題が次から次へと発生しました。歯を食いしばって何とか経営を続けてきたものの常に不安や心配を抱えていたのです。そのような時に倫理法人会への入会を勧められ、経営者モーニングセミナー（以下MS）に参加しました。

Nさんは、セミナー会場で経営者が熱心に勉強している姿を見て、感動しました。ここで学びを続けられたら、自分の求めているものが見つかるかもしれないと思いい、休まず通うようになったのです。

しばらくすると、Nさんに講話の依頼がきました。当初は、会社の紹介や、経営理念・経営戦略を話そうと思っていました。ところが、講話の前日「純粋倫理は純情（すなお）になる勉強だ。これまで明かしたことがない、自分の出生について話そう」という考えが浮かんできたのです。

Nさんは複雑な家庭環境で育ちました。親からの愛情をまったく感じる事ができず、子供の頃から自身の境遇を恨んでいたのです。それはやり場の無い怒りとなり、大人になっても消えることは



親との関係を見つめ直し 心のしこりを解く

ありませんでした。それが時に態度に表われ、人を近づけない雰囲気を持っていたことに気づかずいたのです。

講話の当日は原稿を持たずに登壇しました。不思議と言葉が繋がりに、人に言えなかった自分の生い立ちを話すことができ、心次第で受けとめ方が変えられる。産んでくれてありがとう」と親への感謝を口にすることができたのです。強烈な生い立ちに驚いていた会友も、講話が終わると「良かったよ」と声を掛けてくれました。

その後、他の会でも講話の機会があり、回を重ねる毎に親へのしこりが薄らいでき、心が浄化される感覚を覚えました。

併せて、今は亡き父母のお墓参りもしました。久しく訪れていなかった墓前で、手を合わせていると、自然と涙が流れました。〈本当はもつと甘えたかった、頼りたかった、かまっていたほしかった…〉と、Nさんは自分の心の奥底に長年隠していた両親への気持ちを知ったのです。

それ以来、不安や心配が消え、Nさんの心が朗らかになりました。それに呼応して、事業に変化が起きたのです。仕事に情熱を注げるようになり、良い条件での売買や物件管理の仕事が決まって、業績が上り調子となりました。

この体験を通して、〈両親がいたからこそ、今の自分という存在がある〉と強く実感しているNさん。今では定期的に両親のお墓参りをしています。